

鱒ヶ沢スキー場の拡張計画をご存知ですか

昨年11月、青森県知事木村守男氏は鱒ヶ沢スキー場の拡張計画を認可しましたが、今回の認可は行政手続きそのものが、わたしたちの納得できる手順をふまえたものとはいえません。私達は、鱒ヶ沢スキー場拡張計画の問題点をとりまとめてみました。この問題について、みなさんも一緒に考えてみませんか。

鱒ヶ沢スキー場拡張計画は
自然環境への影響があるの？

天然記念物に指定されているクマガラやイヌワシの生息が確認されています。しかし、県は環境アセスでは確認されなかったと言ったきり、我々の確認報告を一切認める姿勢にありません。確認報告が出されている以上、しっかりとした、再調査が必要です。

拡張計画ではこうした地域を含む約40町歩を対象区域とし、そのうち10町歩のスキーコース化を計画しています。開発予定地域の傾斜は急で、コースの終点は大鳴沢川の源流部を大きくまたぐ計画です。さらなる農業の水不足を招くだけでなく、土壌の流出・土石流発生の危険性が高いことは明らかです。

農業・漁業にも大きな影響が

森林によって涵養される水が大鳴沢を下り、あるいは伏流水となって鳴沢川流域を潤しています。森林の伐採によって水源が枯渇すれば、周辺農家の生活基盤が失われるだけでなく、沿岸漁業の衰退にさらに拍車がかかることが予想されます。しかし、環境アセスメント調査では

、地域住民が問題としている水と土砂流出等についての調査は皆無となっています。

保安林指定を求める農民

この森林が100年以上の歴史を持つ水源涵養のための森林であることは、古文書にもはっきりと記載されています。昨年の11月18日、鱒ヶ沢町民約700人は生活基盤を確保するために、拡張予定地の森林保全を求めて「保安林指定を求める請願書」を提出しました。また、スキー場拡張中止を求める要望書署名、保安林指定を求める要望書署名は、一万筆以上集約されています。

標準は冬期アジア大会

この拡張計画は、冬期アジア大会を視野に入れた開発です。西武グループの総帥の堤義明氏は、日本オリンピック委員会（JOC）の名誉会長です。我々にはほとんど公開されない不透明な経緯により、岩木山の森林は今年の夏にも伐採されようとしています。自然あふれる森林をみなさんの手で守りましょう。

3月19日（日）午後1時30分～、公開シンポジウムを開催します